

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



No.1073 2009年8月号

『「学校林・遊々の森」 全国子どもサミットin四国』を開催

四国各地や全国から集まった小学校児童による森林学習・体験活動の発表や先生方の意見交換会等を行いました。

【詳細は2頁以降に掲載】



児童による活動発表



先生方の意見交換会



紙すき体験



竹で「ご飯を炊いている様子

八月二、三日の両日、高知県香美市の香美市香北体育センターと高知県立香北青少年の家を主会場に、『学校林・遊々の森』全国子どもサミットin四国』を開催しました。

本サミットは、学校林や遊々の森における子どもたちの学習・体験活動の取組を全国に広げていくことを目的に、平成一九年度の東京都八王子市、二〇年度の熊本市での開催に続き、今回が三回目となるものです。

学校九校、兵庫県、山形県の小学校各一校の児童や先生、一般参加者など総勢一五〇名が参加しました。

一日目は、児童による学習・体験活動の発表や先生方の意見交換会、森林体験学習として「竹で作った器でご飯を食べよう！」などを、二日目は、三班に分かれて森林体験学習を行いました。

一、児童による森林学習・体験活動の発表

各校の児童から、植樹や間伐体験、山・川・水田のつながり、清掃活動、環境問題への取組など、日頃の活動内容やその成果について発表がありました。

広めよう！森林づくりの大切さを全国に！

『学校林・遊々の森』全国子どもサミットin四国』を開催！

〈指導普及課〉

各校共通して、学習・体験活動を通じて森林の働き等への理解を深めているとともに、ふるさとの森林を守ることの大切さを訴えていました。

二、森林環境教育の推進に向けた先生方の意見交換会

各校の先生が、現在抱えている学校林や遊々の森における活動の課題と今後の対応策を述べた後、コーディネーターの京都教育大学教授の山下宏文氏による進行で意見交換を行いました。

各校共通して、活動場所が遠いというアクセスの問題、森林環境教育のための授業時間の確保が難しいという課題があることがわかりました。また、学校林については、維持管理に苦慮しており、どのように継続・発展させていくかという課題があることがわかり、各校の対応事例などの情報交換を行いました。

三、森林体験学習

一日目の「竹で作った器でご飯を食べよう！」では、子どもたちが悪戦苦闘しながら竹を切り抜き、その中に米と水を入れたご飯の炊き方を体験しました。

三班に分かれた二日目の、①「遊びを通して森林を知



最後に力強く記念撮影

各校の児童や先生は、このサミットで様々な情報交換や交流しました。

②「木にふれて創作してみよう！」では、木工クラフトでオリジナルの名札などを製作し、木が身近なものであることや様々なものが作れることを学びました。

③「紙すき体験をしよう！」では、間伐材などを活用した手すきの和紙作りを体験しました。

森林ボランティア活動への意欲十分

森林ボランティア活動入門講座を開催！

〈指導普及課〉

流を行い、夏休みの貴重な経験になったことと思います。今回参加された方々が情報発信源となり、森林での学習・体験活動が今後さらに広がっていくことが期待されます。

なお、このサミットの結果は、今後報告書にまとめ、学校林や遊々の森を持つ全国の小学校に送付する予定です。

近年、国民の皆さんの森づくりへの参加意識が高まっており、特に、五〇歳以上の世代を中心として、ボランティアにより森林の整備・保全を行おうとする人が増えています。このため、四国森林管理局では、平成一九年度から、森林ボランティア活動を志す五〇歳以上の方を対象に、「森林ボランティア活動入門講座」(延べ三日間)を開催しており、二一年度については、七月二二日に、一日目を開催しました。

受講者については、一〇名程度の募集に対し、それを越す方の応募があり、先着順で



木に親しむ木エクストラフトづくり体験

一・二名とし、香川県内から女性を含めて四名、高知県内から八名が受講しました。
当日は、午前中に、森林管理局職員から、森林・林業分野の基礎知識を含めた「森林ボランティア活動のすすめ」と、「安全対策について」の講義を行いました。
受講者は、熱心にメモをとったり、また、「実際に森林ボランティアに参加するにはどうしたらよいか」、「中国（中華人民共和国）の森林面積が増加しているのはなぜか」、「日本の国産材製材品の乾燥材比率が低いのはなぜか」といった質問が出され、森林ボランティア活動や森林・林業への関心の高さが伺えました。

午後からは、実際に木にふれて親しんでいただくため、四国森林管理局が行う学校への木工教室の際に、特に協力をいただいている正岡金四郎氏から、「木に親しむ木エクストラフトづくり体験」として実習を行いました。
木工クラフトは、ひらがなの「し」と「あ」などを組み合わせさせた「けん玉」を製作しました。
受講者は、日頃使うことのない糸のこ機械やナイフに戸惑いながらも、けん玉を集中して作り、完成後は一喜一憂していました。

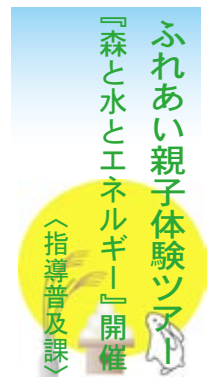


完成した「けん玉」(「あ」と「し」の組み合わせ)



アメゴの放流

七月一八日、四国電力との共催で、「ふれあい親子体験ツアー」を、高知県の町本川の四国電力エネルギープラザ本川、土佐町の稲村ダム及び嶺北森林管理署管内の国有林で実施しました。
参加者を公募により募集し、九組、一八名が参加しました。
この催しは、平成一五年から実施しており、今回で七回目となります。
今年度は、土佐町・教育委員会の後援により「遊々の森」を借りて、これまでの植栽・下刈りに変えて間伐を実施しました。
始めに、土佐町の道の駅「土佐さめうら」付近の吉野川支流



この見学では、普段見ることの出来ない設備に、大人の参加者が感嘆の声をあげていました。
その後、稲村ダム（本川発電所の上池）湖畔での昼食の後、「遊々の森」での間伐作業を体験しました。
間伐作業は、直径十数センチの立木を親子が協力して切り倒すこととしましたが、参加した子ども達の中には、ノコギリを使って木を切ったことがある子もいて、「立木は切り倒したことは無いから、自分で最後まで



発電所内部見学

の河原で、川上計画部長が、森と水そしてエネルギーについて見て聞いて体験してくださいと挨拶し、地元の漁協の指導を受けアメゴの放流が始まりました。
次に、エネルギープラザ本川の地下深くにある本川発電所の揚水発電施設を見学しました。
この見学では、普段見ることの出来ない設備に、大人の参加者が感嘆の声をあげていました。
その後、稲村ダム（本川発電所の上池）湖畔での昼食の後、「遊々の森」での間伐作業を体験しました。

やる」と、悪戦苦闘しながら、お母さんの手を借りず一人で最後まで頑張った子もいました。
最後に、それぞれが切り出した、間伐材を輪切りにし、コースターや鉛筆立てを作る作業もしました。
最後に、四国電力山本次長から、森を育て水を大切にする気持ち大切にするよう締めくくりに、四国電力スタッフから、せっかく作ったコースターが割れないための裏技が伝授され全行程を終了しました。



間伐体験

例年、環境月間中の実施でしたが今年度は新型インフルエンザの影響で、この時期の開催となりましたが、天候にも恵まれ、子ども達には、このツアーが夏休みの思い出に残る第一号となったと思います。

各地の

たよりの



校庭の樹木も役立つって

—森林と地球温暖化

防止を学習—

〈ふれあいセンター〉

七月六日、四万十市立後川中学校一年生九名を対象に、「森林と地球温暖化防止」をテーマにした森林環境教育を実施しました。

最初に、「世界の森林の現状」「森林の機能」「森林（樹木）が果たす、地球温暖化防止の役割・CO₂の吸収と貯蔵」「京都議定書」などについて、説明しました。そして、実際に樹木がどれだけのCO₂を蓄えているか計算するため、校庭に出てクスノキなど三本の胸高直径と樹高を測



校庭の木調査中、直径は？

定しました。教室に戻り、職員の説明を受けながら計算式に当てはめてCO₂の重さを算出した生徒たちは、2歳のペットボトルの本数に換算すると、やつと実感が沸いた様子でした。

実施後に届いた生徒の感想文には、「森林が、地球温暖化防止に役立つということが分かった」「エコ活動に心がけたい」「計算が難しかった」などと書かれていて、今や喫緊の課題である地球温暖化防止への関心に繋がったようです。

また、この日は近くにある利岡小学校六年生二名も参加して、熱心に聴講しました。

ふれあいの森で間伐作業

〈徳島署〉

七月七日、徳島県那賀町の釜ヶ谷国有林・ふれあい高城の森において、高知林業土木協会の呼びかけで、同協会員四五名が集まり、チェーンソーを使用した、スギ、ヒノキの間伐と枝条整理を実施しました。

あいにくの梅雨空で、小雨が降りしきる中で作業となりましたが、三人一組、慣れた様子で次々に伐採していました。途中、かかり木が発生する場面もあり

ましたが、ロープを利用して無事に処理することができました。作業を終える頃には雨もやみ、間伐を終えた林内には、時折雲の切れ間から光が差し込んでいました。



間伐作業の様子

サマーキャンプで森林教室

〈徳島署〉

七月二五日、美馬市木屋平の中尾山高原において親子約一二〇名が参加した、今年で二六回目となる連合徳島主催のサマーキャンプが開催されました。

あいにくの空模様でしたが、夏休みが始まったばかりで元気いっぱいの子供たちは、当署職員による森林教室や木工クラフトの後、バーベキューや、植樹を体験し、親子で自然に親しみました。森林教室では、紙芝居を使っ



サマーキャンプの様子

て森林の役割について説明した後、除伐木や間伐材を使用した木工クラフトに取り組みました。子供も、大人も、熱心に職員の説明に聞き入り、夢中で動物のマスクット、写真立てと、竹笛を完成させました。

今回の森林教室が親子にとつて、楽しい夏の思い出となり、今後、木材利用や環境問題に関心を持つきっかけとなる事を願っています。

「緑の募金」寄付金及び林野庁長官感謝状贈呈式

〈指導普及課〉

八月四日、四国森林管理局局長室において、高知銀行 頭取 伊野部重晃氏へ四国森林管理

局長より「緑の募金林野庁長官感謝状」が贈呈されました。高知銀行は、創業八〇周年記念として、地球の緑化応援定期を募集し、その預金総額に応じて、その〇・〇一%を「緑の募金」に寄付することとしています。この度、預金総額の〇・〇一%募金総額約三二八万円が「緑の募金」として高知県森と緑の会へ寄付されることとなり、感謝状が贈呈されることとなりました。

当日は、高知銀行頭取、専務、高知県林業振興環境副部長、高知県森と緑の会理事長ほか数名が出席のもと、なごやかな歓談の後、寄付金及び感謝状が贈呈式が行われ、記念撮影を行いました。



長官感謝状贈呈式